

 特集 ライティング力

中学校におけるライティング力を高めるための指導

東京都練馬区立豊玉中学校 津田雅子

1. はじめに

現行中学校学習指導要領の「実践的コミュニケーション能力」という文言が、中学校英語指導において、特にライティング指導に与えた影響の大きさをまず初めにお伝えしなければならない。ALTの導入が始まって、リスニングやスピーキングについての研究授業は脚光を浴び、リーディング、ライティングの指導は軽んじられてきた傾向があった。そのことは、私の身近でも明確な結果として捉えることができる。東京都や練馬区でここ数年行われるようになった学力テストの結果によれば、書く力に関わる問題の正答率が全体的に低いことが指摘されているのである。この傾向は全国的にも見られるようで、ライティング能力が育成されていない状況について、英語教育界でもよく話題になっている。

そこで、ここでは中学校段階でのライティング力育成の指導について述べていきたい。

2. 教科書を活用したライティング力の育成

三省堂New Crown（平成18年度版）では、ライティング指導として以下のテーマを取り上げ、指導している。

1年	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己紹介をしよう (スピーチ原稿を書く) ◆カードを書こう (休み中のできごとについてハガキに書く)
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◆将来の夢は日本語教師です (スピーチ原稿を書く) ◆ホストファミリーへのEメール (問い合わせのメールを書く)
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◆「扇子」を説明してみよう (日本文化についての説明文を書く) ◆いちばんの思い出 (3年間の忘れられないことについて書く)

(1) 指導の方法の例

●1年「自己紹介をしよう」の指導例

STEP 1 モデル文を読み、どんなことを書くか考えてみよう（3枚の絵とモデル文が示されている）。

STEP 2 WORD BANKを参考にして、モデル文の下線部を自分のことにかえて書いてみよう（3枚の絵に示された「名前は？」「好きなことは？」「紹介するものは？」に従って自分のことを3文書く）。

TRY 1 上で書いた3つの文を使って、自己紹介の文章を書いてみよう。

TRY 2 完成した原稿を覚えて、クラスで発表しよう。

(2) THINK ABOUT ITの例

上記のテーマについてのライティングの他に、各レッスンのまとめとして、“THINK ABOUT IT”のコーナーで、学習した内容について簡単な要約文を書かせたり、自分の考えを書くなどのタスクもある。

<3年 LESSON 4 “Sadako and the Thousand Paper Cranes” USE IT>

① このレッスンで印象に残った単語を3つ書き出してみよう。

② ①で選んだ単語を使って、本文を参考にしながら英文を書いて発表してみよう。

上記のように学習指導要領の言語活動の取り扱いにある「言語の使用場面」「言語の働き」を考慮して、さらに言語材料と発達段階を考えながら、ライティングのテーマが決められている。

また書くことだけに終わらず、書いたものを口頭で発表したり、モデル文を読むことから書くことへと発展させたり、聞いた事柄をまとめるために書くことに取り組んだり、教科書の活動は4技能を上手に統合しながら取り組むようなタスクが作られ、ことばの学習としての機能が自然に獲得できるようになりつつある。こうした教科書のライティング指導教材がだんだんと充実してきていることは大変嬉しいことである。これらの積み上げにより、ライティング力をつけることが可能になってきていると思う。

3. ライティング指導における問題

前に示したように、各教科書では最終的には「まとまりのある文章」を書くような段階的なタスクの取り組みが提示されているが、教師によっては時間がかかるからという理由で最終段階を省略したり、ただ書かせ放しという状況で終えてしまっている場合もあるようだ。私の世代が教師になった頃は、「まとまりのある文章」を書くようなタスクは教科書の中にはなく、言語材料を定着させるための1文和訳がその大勢を占めていた。その後、「コミュニケーションにおける書くこと」が言われるようになり、今のようスタイルのライティング指導が実施されるようになってきた。単文でのライティング指導だけで書く力をつけていくことは難しい。時間

がかかっても「まとまりのある文章」を生徒に書かせること、また継続的に、発展的に指導していくことを通して書く力を育成することができると思う。

4. ライティング指導の実際

(1) 中学校でのライティング分野

前述したように、ライティング指導において、コミュニケーションを意識して書く指導を実践することが、英語をことばとして獲得するための必須条件である。そのためには、何のために書くか、書く目的を明らかにする必要がある。

しかし、コミュニケーションを中心に置いた文章をすぐに生徒が書けるようになるわけではない。無価値でやる気を起こさせない作業だとして教師によっては軽んじられることもある copying や reproduction、combination、substitution、completionなどの練習問題を数多くやることによって書くことの基礎的な力をつけることができる。つまり、skill-getting と skill-using が互いに絡み合う指導を通して、生徒は伝えたい意味・内容を読み手に伝わるように表現できるようになると思う。

そこで中学校段階のライティング分野を以下のように考え、指導している。B分野の guided-writing が教科書のライティング・タスクとして考えられる。

●中学校ライティング分野

授業形態		分野	方法	内容
教師主導	教科書	A	後の文の構成要素となる文をパターン練習し、書く	recognition (認知) copying (書き写し)
		B	既習の言語材料の習熟を兼ね、条件を与えて文や文章を書く	reproduction (再生) combination (結合) substitution (置き換え) completion (完成) guided writing (教師主導型ライティング)
生徒主体	自己表現	C	あるトピックについて、まとまりのある文章を書く	summary (要約) free writing (自由に書くライティング)

(2) 教科書を活用したguided-writing

●1年生「自己紹介」

STEP 1 生徒はモデル文を読み、何を書くか、どのように書くかについて考える。

STEP 2 モデル文と絵を参考にして自分について3文を書く。

①名前 My name is Mizukami Tomomi.

②好きなこと My favorite subject is music.

③紹介するもの This is my recorder.

TRY スピーチとして必要な表現をモデル文から探しだし、Step 2 で書いた3文に肉付けしてまとまりのある文章を書く。

Hello, everyone. My name is Mizukami Tomomi. I'm thirteen. What's your favorite subject? My favorite subject is music. This is my recorder. I use it every day. I like it very much. Thank you.

(3) Process writing

Vivian Zamel (1989) は、「書くこと」を意味が創り出されるプロセスであると述べている。つまり、アイデアを一般化し、形式化し、洗練するプロセスが書くことであると捉えるのである。この理論を踏まえて、まとまりのある文章（修学旅行新聞）を書くことに取り組みさせたが、書くことを孤独な作業にせず、グループ活動を通して取り組むことによって、友だちからアイデアをもらったり、友だちの評価により自信を持つことにもつながり、楽しく学習に取り組む状況が生まれた。

① Pre-writing stage

Planning, Composing

- ◆Brainstorming (Semantic mapping, Listing, Quick writing)
- ◆Discovering ideas
- ◆Writing notes about the ideas

② While-writing stage

Drafting

- ◆Organizing sentences logically (topic sentence, supporting sentences)
- ◆Rereading & Evaluating

③ Post-writing stage

Revising, Editing, Proofreading

- ◆Checking errors
- ◆Revising the draft
- ◆Evaluating and commenting on friends' work
- ◆Commenting on students' own work
- ◆Handing in work (Evaluated by a teacher)

(4) 誤りの指導

Ann Raims (1983) は、誤りについて以下のように述べている。

- ア errorsを敵と思ふな、友と思え。
- イ 生徒のerrorsをライティングを前進させるために使え。
- ウ 教師がやる前に生徒にerrorsを訂正する時間と機会を与えよ。
- エ 教師は生徒が何を表現しようとしているのか考えよ。
- オ 生徒へerrorsを提示するシステムを工夫せよ。
- カ errorsを期待するようになれ。許されないerrorsではなく学習の結果と思え。

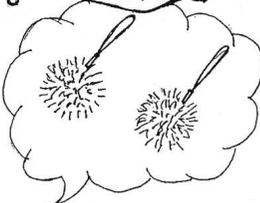
誤りの指導に関しては上記のRaimsの考えを取り入れ、意味の伝達としての動きをしていない致命的な言語使用に関する誤り以外についてはあまりこだわらず、accuracyよりもfluencyに重点を置くことにしている。継続的に指導することを通して、生徒は自分で自分の誤りを訂正できるようになる。

The School Trip News



Publisher
3-C
44

Departure ★



The first day...

I went to Iwate on a school trip. There was an earthquake the day before this trip. But I was happy to go there. I took the Tohoku Shinkansen. We went to Igrisu Beach with my host family. It was very beautiful. We stayed at farmer's house.

The second day...

In the morning, we would help to cultivate flowers. But we could not it. So we made a strap of mink. This work was delicate. I was glad when I finished making it.

In the afternoon, we went to Koiwai farm. I was surprised because it was very large. I ate ice cream cone there. It was delicious.

At night, we listened to Tsugaru three stringed Japanese instrument when we ate dinner. I listened it for the first time in my life. Their performance moved me. Everyone's excitement was covered itself to me.

How To Make A Paper Weight

I made paper weight in Koiwai farm. Now, I am going to tell how to make it.

1. I wrapped wool of various colors. I chose blue and white.
2. I put a sheep into a plastic bag with detergent. And I rubbed wool around a sheep doll.
3. I picked up it from a plastic bag and washed it.
4. I dried it.



Return ★

MY COMMENT

We had a number of pleasant experiences on our school trip. It became a pleasant memory. I am grateful to our teachers and host families. Thank you.

The third day...

We went to Geibi Gorge. We road on a boat. We could see many kinds of rocks. And I feed the fish. I like there the best.

In the afternoon, we went to the Moutsuji Temple and Chusonji Temple. We were taken a picture there.

My school trip finished!

5. 終わりに

上記の修学旅行新聞を書き終えた後に、生徒に感想を書いてもらった。こんな感想があった。「以前はただ書くだけだったが、たくさんライティングをやって、書く内容に意味をもって書くようになったと思う」「書くことは難しいが、書くにつれて少しだけれど書き方がわかってきた気がした」もちろん、すべての生徒が同じように意欲的になったわけではないが、多くの生徒が書くことを難しいと捉える状況は減ってきたように思う。教師が苦手意識を抱えていたり、

面倒だからといってライティング指導をやっていかなければ、生徒の書く力を育成することはできない。確かにライティング指導は時間がかかる。しかし自分なりの指導のストラテジーを確立すると、生徒はだんだんと書くことに慣れ、モデル文以上に流暢に文章を書くことにトライするようになる。中学校におけるライティン指導が多くの教師によって取り組まれ、高校での指導へと発展的に継続されることを期待したいものである。

9